

『修武館武道摘要』

- 一. 我が修武館の武道は、日本人固有の純粹で美しい心身を鍛錬するためのものであり、無意味に技を競い名前を上げることで自己の技量と誤解してはならない。

- 一. その武道は偽り飾らないのが本文である。故に道場に立ち刀槍を手にして初めて武道になる訳ではなく、日常の行動全てから武道の心が離れてはならない。目上の人に対する忠誠心を持たず、親に孝行を尽くさず、朋友に信じてもらえない人間に武道はあり得ない。常に誠実であり心豊かである人を武道の達人とする。

- 一. 武道を志す者は常日頃から無欲を通し物事にこだわってはならない。欲があれば気持ちが阻まれ、気持ちが阻まれば刀槍の運びが鈍るため勝負にとって利はない。

昭和18年4月

修武館館長 小西業精の見識